

茨城県国際理解教育推進協議会  
会 長 石 川 哲 夫 殿

## ワールドキャラバン国際理解教育実施報告書

学校名 水戸市立妻里小学校 担当教諭名 生田目 みつ子

「ワールドキャラバン」国際理解教育については、下記のとおり実施しましたので報告します。  
記

実施日時	平成 21 年 12 月 16 日 (水) 10:30 ~ 13:30
対象学年と人数	3 年生 41 名
派遣講師名と出身国	オレリアン・バロン先生 (フランス)
活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師紹介</li> <li>・フランスの紹介 (地図上の位置, 国旗の紹介, 食生活, 自分の住んでいた地域, スポーツ, その他)</li> <li>・児童の英語による自己紹介 (一人ずつ自己紹介並びにバロン先生に簡単な質問)</li> <li>・バロン先生によるパフォーマンス (エアギター)</li> <li>・会食 (児童, A E T と一緒に)</li> <li>・お別れの会 (A E T とフランス語による会話披露, 写真撮影, お礼の言葉)</li> </ul>
コーディネーター	川瀬由紀子
生徒・保護者等参加者の感想	<p>フランスの国旗の色の意味や地図でどこにあるのかが分かりました。また、日本では野球はスポーツですがフランスではちがうこと、日本ではお米をつくっているがフランスではつくっていないことが分かり、びっくりしました。(児童)</p> <p>今まで、自由の女神はアメリカだと思っていましたが、本当はフランスが送ったことが分かりすごいなと思いました。(児童)</p> <p>エッフェル塔やフランスのきれいな庭の写真を見て、フランスに行ってみたくになりました。(児童)</p> <p>フランスパンは日本人もよく食べているし、エコキャップ運動は日本でもフランスでもやっていることが分かり、日本と同じところもあるんだなと思いました。(児童)</p>
先生の感想	<p>最初から笑いっぱいだったので、子どもたちがとても興味をもってフランスの話聞くことができた。話の中には、日本との共通点や相違点についてもふれているため、児童自身が自然にフランスと日本とのつながりについても考えられるようになっていた。特に、写真を見せながらの説明や児童の様子を見て質問の時間を入れたり、時間の使い方が工夫されていて、児童の関心がとぎれることなく充実した時間を過ごすことができた。また、一人ずつ簡単な英語で自己紹介をしたが、一人一人に丁寧に対応してくださり、子どもたちも自分の言葉が通じたと自信をもつことができ、とてもよい交流ができた。本校の A E T とのフランス語による会話では、英語以外の言葉のやりとりを目の前で初めて聞いたので、世界にはいろいろな言葉があることが分かり、国際理解への興味関心を高めるきっかけとなった。</p> <p>本校では初めてのワールドキャラバンであったが、コーディネーターの方が早めに打ち合わせに来てくださったので当日はスムーズに進行ができた。</p>

